

氏名	寺田 孝史
学位の種類	博士(安全保障学)
学位記番号	第668号
認定課程名	防衛大学校総合安全保障研究科後期課程
学位授与年月日	令和3年3月21日
論文題目	陸上自衛隊員の心理的レジリエンス —日常的な職業性ストレスへの適応を中心に—
審査担当専門委員	(主査) 南山大学教授 山田 哲也 東洋大学教授 西川 吉光 一橋大学教授 山田 敦

### 審査の結果の要旨

本論文は、諸外国の陸軍同様、有事任務に際し、強い心的外傷経験の可能性がある陸上自衛隊員を対象に、日常的な職業性ストレスへの対応としての「レジリエンス（回復力）」に着目し、有効的な心理的レジリエンス要因は何か、を検討したものである。序章では心理的レジリエンスを「困難な状況の中で、落ち込んでも、仲間とともに対処し、適応していく能力」と定義した上で、本研究の目的が設定される。第1章以下では、レジリエンス能力尺度日本語版（RCS-JS）を手がかりに、アンケート等の手法を用いた上で、それを統計学的に処理し、「楽観主義」、「変化への適応」、「自己への気づき」の3因子が回復過程に影響していることを明らかにしている。また、警察職員、消防職員、企業従業員との比較検討が為され、陸上自衛隊員については「つながり」が独自の因子としてメンタルヘルスに影響していることが明らかにされている。終章では、本論での検討を踏まえ、組織的背景を念頭においたレジリエンス施策導入に際して検討する方向性が示されている。

本論文は、ユニークな論点について、体系的なリサーチデザインのもと、統計学的に慎重な分析が行われていると評価できる。また、本来であれば、防衛省なり各自衛隊が組織（横断）的・日常的に行うべき調査を個人が独力で実施した点も評価できるものであり、学位授与におおむね十分な内容・質を備えた論文であると審査委員一致で合格と判定し得ると判断した。

他方、論文冒頭では、「自殺予防」という観点から本研究を着想したとしているのに対し、結論部分が、やや「自殺予防」から離れた文脈になっていること、ま

た、本研究の持つ政策的インプリケーションについて、もう少し具体的かつ突っ込んだ検討が為されていれば、本研究のユニークさが際立ったと思われ、その点について問題なしとはしないが、学位授与に関する結論を左右するものではなく、申請者の今後の研究の発展に期待したい。

以上により、博士（安全保障学）として合格と判定した。